

前橋市老人福祉センター及びみやぎふれあいの郷のあり方検討委員会結果概要について

令和8年4月7日
長寿包括ケア課

趣旨

高齢者のライフスタイルの変化や施設の老朽化等を踏まえ、令和7年3月に有識者等で構成する「前橋市老人福祉センター及びみやぎふれあいの郷のあり方検討委員会」を設置し、施設の主要な利用者層を対象とした市民アンケートも実施し、課題の整理と中長期的な施設のあり方等の検討を行ったもの。

○検討委員会の委員の構成

中小企業診断士、前橋市老人クラブ連合会、前橋市社会福祉協議会、利用者代表、行政代表の5名

○委員会開催経過

令和7年3月19日に第1回を開催し、令和8年3月27日の第5回で報告書を市に提出。

○検討の進め方

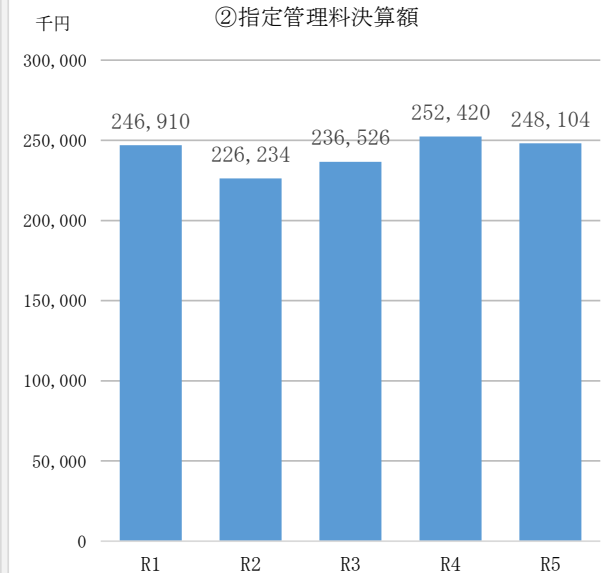
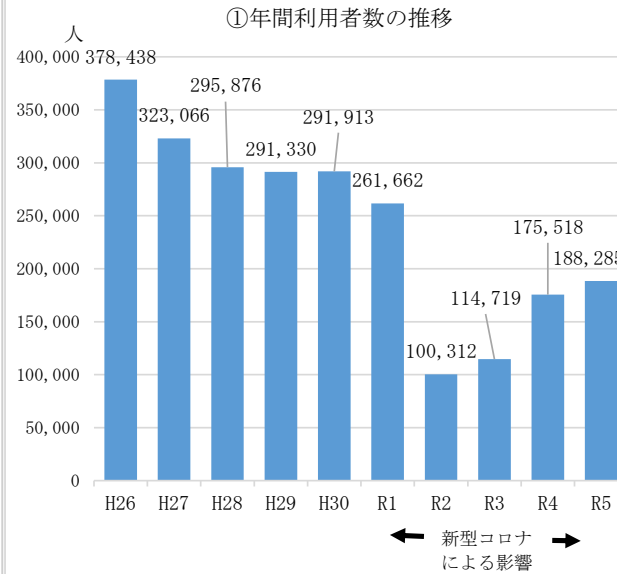
課題や中長期的なあり方について、施設の状況や市民アンケート結果等を踏まえ、意見を集約し報告書にまとめる。

【課題】

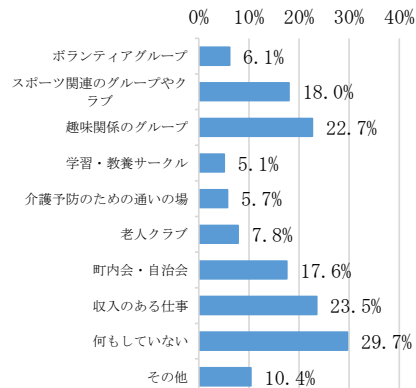
- (1) 施設利用者数の減少
- (2) ライフスタイルの変化と活動場所の多様化
- (3) 施設の老朽化
- (4) 費用対効果

○市民アンケート調査の実施

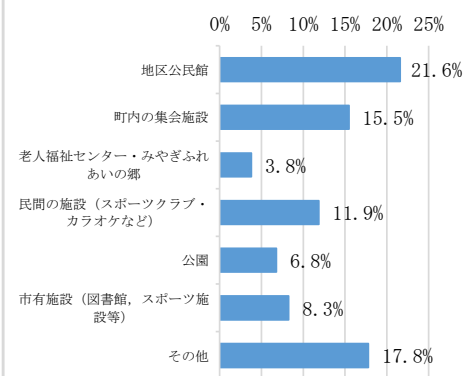
- (1) 調査対象者 市内在住の65歳以上の方から無作為に抽出した1,000人
- (2) 調査期間 令和7年8月1日から9月1日
- (3) 回答数 472件（回収率47.2%）



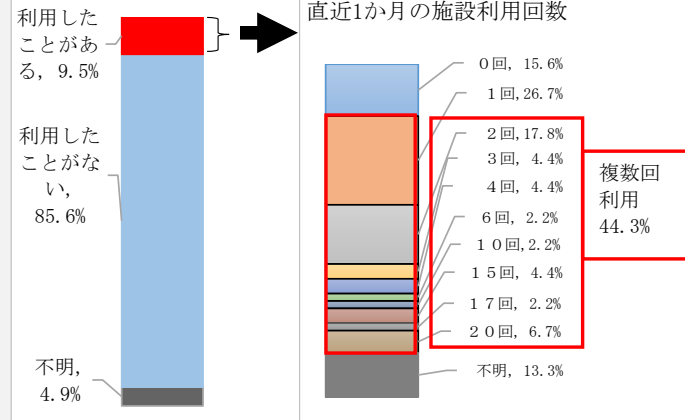
③日ごろの主な活動 (市民アンケートより)



④日ごろの主な活動場所 (市民アンケートより)



⑤概ね1年間の施設利用の有無 (市民アンケートより)



⑥将来見込まれる経費の試算

◇指定管理料
20年間に係る指定管理料
6,091,604千円

◇長期的保全計画に係る概算経費

- ・R1～R5までの実績 114,735千円
- ・R22(2040)までに係る概算経費 2,890,743千円
- ・計 3,005,478千円

(1) 施設利用者数の減少

毎月発行している「老人福祉センター・みやぎふれあいの郷だより」の紙面の工夫やSNSの活用、老人クラブ、民生委員・児童委員連絡協議会等の関係団体と連携を図るなどの確かなPRを図る必要がある。また、老人福祉センターの愛称「にこっと」の活用のほか施設近隣の地域や学生等と連携したイベントの企画を通して活動等の発表の機会を検討するなど利用者が来館ししやすい環境を整備していく必要がある。さらに、健康増進事業、健康相談事業、機能訓練事業、健康教室などの事業は、コロナ禍から回復傾向にあり、施設ごとに強みがあるように見受けられる。施設間の情報交換をさらに深めていく必要がある。

(2) ライフスタイルの変化と活動場所の多様化

活動場所として割合の高かった地区公民館は、施設に求める活動の「仲間づくり等の交流（自主クラブなど）」、「教養・文化事業」を実施しているものと推察される。公民館事業と施設で実施している事業の把握に努め、重複する事業のあり方について関係課等と協力して検討していく必要がある。一方で、ニーズの高かった「介護予防・健康増進のための事業」、「健康相談事業」は施設として魅力のある事業であると考えられる。大学やNPO法人等との連携を強化しその人材やノウハウを活かすなど利用者のニーズに合った事業となるよう検討していく必要がある。また、「町内の集会施設」では自治会や町社協が企業と連携した健康教室やビンシャン！元気体操を実施するなど高齢者を対象とした事業を実施している。民間の施設を活動の場としている状況も踏まえ、他の公共施設や民間の施設サービスと重複するサービスを整理し、施設のあり方を検討することが必要である。

(3) 施設の老朽化

今後20年間で施設運営費に毎年約3億円、施設のハード面に係る費用として1年あたりの金額にして約1億4千万円が見込まれている。今後、施設の老朽化が進む中で、公共施設のあり方プロジェクトチーム等市役所庁内のプロジェクトと連携し、地区の特性や人口動態等も踏まえながら施設の老朽化に対する検討を進めることが望ましい。

(4) 費用対効果

施設の運営に年間約3億円の経費がかかっており、使用料徴収にかかるコスト等も懸念されるが、利用者個人からの使用料徴収だけでなく団体から使用料を徴収するなど使用料の徴収について検討することも必要である。また、経費の負担が大きい事業、例えばお風呂の開所日数、開設時間を季節や曜日によって工夫するなど、事業が継続できるよう費用面について検討を進めることが必要である。他の公共施設や民間の施設サービスと重複するサービスを整理することや施設の老朽化に対する検討を進める中で、ソフト面とハード面の適正化を図っていくことが必要である。

短期

「老人福祉センター・みやぎふれあいの郷だより」等の活用や関係団体等と連携した事業のPR

中期

【ソフト面】

- 他の公共施設や民間の施設と重複するサービスを整理
老人福祉センター・みやぎふれあいの郷として必要な機能の整理
(介護予防・健康増進のための事業、健康相談事業等)
- 機能移転等の検討
機能の移転が可能な事業は移転を推進
(民間の活用、地区公民館等の公共施設、町内の集会施設など)
- 使用料の検討
現在の使用料体系の見直しの検討
(団体に対する使用料、その他の使用料の検討など)

【ハード面】

- 事業の機能移転等と連動し施設の適正化を検討
庁内の公共施設あり方PTと連携
(統合・再配置、複合・集約化(機能移転)、廃止等)
- 設備の更新や修繕
更新時期を迎える設備の検討
(浴槽循環装置の更新等は、利用状況等に応じて更新の有無を検討するなど)

長期

市役所庁内の計画・プロジェクト等と連携し、施設のあり方を検討